

Eテレ 特集シリーズ「日本人は何を考えたのか」

未曾有の震災、原発事故、そして混迷する政治・経済…いま、私たちは文明史の転換に立たされている。日本はどこへゆくのか。時代の座標軸を求めて、思想や哲学を求める声が高まっている。日本が近代文明を目指して開国してから150年。この間、人々は時代と向き合い、何を考えてきたのだろうか。思想の巨人たちの苦闘の中に、今を読み解く手がかりはないのか—。

このシリーズは国際的な新しい視点で2年がかりで日本人の近代の思索の営みを描いていく。



第1回 知花くらら



第2回 菅原文太



第3回 西島秀俊

明治編 文明の扉を開く

第1回 日本はどこへゆくのか ～福澤諭吉と中江兆民～ 1月8日(日)夜10:00～11:30

黒船来航によって開国させられた日本。文明世界を初めて見た日本人は何を考えたのか。明治日本を代表する二人の思想家・福澤諭吉と中江兆民の欧米での体験を探ろうとモデルの知花くららさんがアメリカ、フランスを訪ねる。

幕末、米欧を訪れた福澤はイギリス流の二大政党による議院内閣制に注目。一方、岩倉遣欧使節団でフランスに留学した中江はルソーに影響を受け、直接民主制を民主主義のモデルと考えた。しかし、政府の伊藤博文・井上毅らはプロイセン等の憲法をもとに明治憲法を制定。天皇と政府に強い権限を与えた。こうした中、中江は上から与えられた「恩賜的民権」を「恢復的民権」へ育てていくことを主著「三酔人経綸問答」で訴える。また、福澤は明治憲法のもと官民が調和した政治をめざしていく。

日本の民主主義の様々な可能性が論議されていた明治10年代、福澤と中江はどのような未来構想を思い描いていたのか。アメリカ、フランス、韓国、海外の研究者の目から二人の思想家の構想を見つめ直す。

【出演】知花くらら（モデル）、坂野潤治（東京大学名誉教授）、松永昌三（岡山大学名誉教授）、高橋美鈴アナウンサー

第2回 自由民権 東北で始まる

1月15日(日)夜10:00～11:30

明治10年代、国会開設を求めて全国にひろがった自由民権運動。福島は高知と並んで運動が盛り上がった地域だった。河野広中らを中心に地方分権を求める声が高まり、士族から豪農そして農民へとその担い手は拡大していく。しかし、1882年の福島事件を機に運動は政府の厳しい弾圧を受ける。いま、原発事故で警戒区域となった福島県浪江町にも当時、苧宿仲衛（かりやどなかえ）という民権運動家がいた。苧宿は投獄されるが、厳しい拷問を耐え抜き、自由を求めていく。

この頃、植木枝盛を初め民間でも多くの私擬憲法草案が作られたが、東北では、五日市憲法を起草した宮城出身の千葉卓三郎、岩手出身の小田為綱らがいた。小田は戊辰戦争で疲弊した三陸海岸の復興計画を何度も建白したが、採用されなかった。こうした東北の民権運動家はその後埋もれてしまい、再評価されたのは第2次世界大戦後のことだった。

3・11以後、復興と再生という課題に直面した日本。かつて戊辰戦争の敗北の中から立ち上がり、東北の人々はどのような未来を思い描いていたのか。

番組では、宮城県出身で大河ドラマ「獅子の時代」では会津藩士役を演じた菅原文太さんが、東北各地に民権運動家の足跡を訪ね、民主主義、地方分権の可能性を考えていく。

【出演】菅原文太（俳優）、色川大吉（東京経済大学名誉教授）、樋口陽一（東京大学名誉教授・東北大学名誉教授）、三宅民夫アナウンサー

第3回 森と水と共に生きる～田中正造と南方熊楠～ 1月22日(日)夜10:00～11:30

今から100年前、森と水を守ろうと奔走した二人の男がいた。「生命の思想家」田中正造と「知の巨人」南方熊楠である。

足尾銅山鉱毒事件で田中正造は、被害民のいのちを奪う鉱毒の実態を知り、政府と企業の責任を追究する。議員を辞職し、直訴した後、田中は、強制立ち退きに抵抗する谷中村に入った。自ら「谷中中学」と称して村民に学び、水と森と共に生きる思想を生み出していく。原発事故以後、晩年の思想家・田中正造の再評価の声が日本のみならず、韓国でも高まっている。

一方、南方熊楠は、政府が打ち出した「神社社会礼令」が地域の生態系や文化を破壊するとして反対。地元の熊野の森を危機から守ろうと闘う。南方は粘菌などの生物学の研究から民俗学、宗教学など幅広い知見を得て、南方曼荼羅とも呼ばれる知の体系を編み出し、日本にはじめて「エコロジー」の思想を紹介した知の巨人だった。

番組では俳優の西島秀俊さんが足尾、旧谷中村、熊野を訪ね、田中正造、南方熊楠の思想と闘いを見つめていく。

【出演】西島秀俊（俳優）、中沢新一（明治大学 野生の科学研究所所長）、
小松裕（熊本大学教授）、高橋美鈴アナウンサー

第4回 非戦と平等を求めて ～幸徳秋水と堺利彦～ 1月29日(日)夜10:00～11:30

日露戦争にあたって非戦を唱えた幸徳秋水、堺利彦。二人は日本の社会主義思想の始まりをリードしたが、1910年の大逆事件で幸徳秋水は処刑される。

近年、大逆事件で処刑された人々の復権が熊野、岡山など日本各地で進むなか、幸徳と堺の再評価の動きがひろがっている。フランス・ボルドー大学教授のクリスティーヌ・レヴィさんもその一人だ。ユダヤ人の伯父を第2次世界大戦で失ったレヴィさんは、帝国主義の時代が始まろうとする時、「非戦」を唱えた幸徳と堺の存在は世界的に評価されると考える。レヴィさんは幸徳の名著「廿世之怪物帝国主義」を仏語に翻訳。二人が非戦の思想を生んだ背景を探っている。

大逆事件は当時、アメリカやフランスでも注目され抗議が行われたが、幸徳ら12人が処刑される。残された堺は遺族を訪ね歩き、「社会主義・冬の時代」を生き抜いていく。文筆でなお「非戦」を唱え続けた堺にも新たな光が当てられようとしている。

番組ではフランス人レヴィさんの目で、非戦と平等を唱えた幸徳と堺の思想を世界史の中で見つめていく。

【出演】クリスティーヌ・レヴィ（フランス・ボルドー大学教授）、山泉進（明治大学教授）、
三宅民夫アナウンサー

テーマ音楽作曲： 渡辺俊幸

（今後の放送予定）

大正編 「一等国」日本の岐路（2012年7月）

第5回 東と西をつなぐ ～内村鑑三・新渡戸稲造～

第6回 大正デモクラシーと中国・朝鮮 ～吉野作造・石橋湛山～

第7回 貧困に取り組む ～河上肇と経済学者たち～

第8回 常民の日本を探る ～柳田民俗学とその継承者～

昭和編 戦争の時代を生きる（2013年1月）

第9回 ひろがる民衆宗教 ～出口なお・王仁三郎と大本教事件～

第10回 昭和維新の指導者たち ～北一輝・大川周明と2・26事件～

第11回 京都学派の哲学者と戦争 ～西田幾多郎から三木清まで～

第12回 女性解放運動はこうして始まった ～平塚らいてうから市川房枝へ～